# 地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



Vol.8
2011.1
Winter

Nantan General Hospital



#### Contents

新年明けましておめでとうございます ・・・・・・・ 2
平成 22 年度 [地域医療教育推進事業に係わる
府立医大実習生」を受け入れて ・・・・・・・・・ 2
公立南丹病院「DMAT」 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
「京都府・京都市国民保護共同訓練」に参加して ・・・・・・ 5
平成 22 年度「京都府基幹災害医療センター
研修会」に参加して ・・・・・・・・・・ 5
「大災害!!」その時手術は? 5
院内保育所「たんぽぽ」 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
「健康食品」とどう付き合うか?・・・・・・ 7
「歩行補助具」をご存知ですか?····· 7
たんぱく質、ビタミンが風邪を予防! 鱈のちり蒸し ・・ 8
編集後記 8



#### 年頭のご挨拶

院長 梶田 芳弘

明けましておめでとうございます。

公立南丹病院の最も大きな使命は、京都府中部医療圏の住民の生命・健康を守ることにあります。

当院は本医療圏唯一の公的総合病院として、今年も救急・災害時・周産期・感染症・僻地医療を担って参ります。

細分化・専門家された臨床各科の充実と、病院職員の資質の向上をはかり、高度医療を実践するよう努めています。

この中部医療圏内ですべての医療が完結するよう、今後とも病院の発展を図りたいと考えています。職員一同、誠心誠意頑張りますので、御支援のほどお願い申し上げます。

臨床研修指定病院 京都府がん診療連携病院 救急指定病院 日本医療機能評価機構認定病院 へき地医療拠点病院 第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター 地域災害医療センター

#### 公立南丹病院

発行:公立南丹病院広報委員会

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地

TEL 0771-42-2510 FAX 0771-42-2096 http://www.nantanhosp.or.jp

# 新年明けまして おめでとう ございます

副管理者 國府 正昭



旧年中は公立南丹病院に寄せていただきましたご厚情に対し厚くお礼を申し上げます。本当に有り難うございました。

「冬来たりなば 春遠からじ」という言葉がありますが、国においては福祉の充実を謳われておりますけれども、医療を取り巻く状況はまだまだ不透明で厳しい状況にあります。しかし、当院の経営面では少し春めいてきたのではないかと思っています。これも梶田院長はじめ職員の皆様方が一丸となって医療の充実に取り組んでいただいた事と、関係の皆様方のお力添えによるものと厚く感謝を申し上げます。

多くの病院が赤字で苦しむ中、病院始まって以来の 大事業に取り組んだ後の赤字から脱して、黒字に転じ た事は高く評価されるものであろうと思います。しかし、 黒字になったとはいえ、このままでは遠からず頭打ち になるのではないかと危惧もいたしております。

当面はベッドの稼働率から、効率的・効果的な活用 方法を検討すべく院内に検討委員会を設置しておりま すが、関係の皆様方のご意見もお聞きして早急に改善 点を見出していけることを期待いたしております。患者 さまの実態等も勘案し、より実効性のあるものにして いくべきものと考えております。

さらに、今後の課題として、放射線治療設備の整備と緩和ケア病棟の建設があると思います。日本ではがんで死亡される比率が高いことから、医療圏の中核病院として必要と考えるものであります。

これらを成し得た時、最終拠点病院としてより充実 され、地域住民の皆様方からさらに信頼され、愛され る病院になるものと確信をいたしております。

今年は南丹病院として業務を開始して 75 年という 節目の年でもあります。気持ちも新たにして、地域住民 の皆様方とりわけ患者さまやその御家族の期待に応え るため、職員の皆様と共に努力してまいりますので、ど うかよろしくお願い申し上げます。

# 平成22年度「地域医療教育推 進事業に係わる府立医大実習 生 |を受け入れて

統括部長(兼)外科部長 上田 祐二

平成22年9月6日から10日までの5日間、京都府立 医科大学が平成18年度から3ケ年事業として文部科 学省の採択を受けて実施し、昨年度以降も京都府の 助成の下、継続されている地域医療教育推進事業(大 学・地域一体型チーム医療教育)の実習生(医学科5 回生15名、看護学科4回生5名)を受け入れました。

本事業の目的は、医学生と看護学生が、地域の医 療を支える基幹病院において臨床現場における実習を 合同で体験することにより、地域医療の仕組みと各地 域の医療・保健・福祉の実情を学び、自らが将来チー ム医療の一員として行動することの重要性を理解する ことにあります。具体的には医療の確保と充実がより 大きな課題となっている府北部の地域基幹病院におい て、各病院における診療体制および医療・保健・福祉 に関する地域の特性を生かしたプログラムを、病院、 地元地域と大学が一体となり、「地域医療」と「チー ム医療」をテーマとした実習を企画、実施することに あります。昨年度までは中丹地区以北の6病院(綾部 市立・福知山市民・舞鶴医療センター・府立与謝の海・ 京丹後市立弥栄・久美浜) が参加していましたが、実 習学生枠の拡大に伴う大学からの依頼により、当院も 今年から参加することになりました。

当院はこれまでも府立医大の臨床実習生を短期的に受け入れてきましたが、看護学科の学生も含む20名もの多くの実習生を一時に受け入れるのは初めてのことであり、今年の春から診療部・看護部・事務局が中心となり、地域の保健所・診療所・老人福祉施設と協議を重ね受け入れ準備を進めてきました。その結果、次の3点を骨子とする実習プログラムを作成しました。①救急外来、手術室等院内各部署での実習や訪問診療・看護による院外実習とともに、多職種の医療スタッフ(医師・看護師・薬剤師・理学療法士・栄養士)によるチーム医療実習を実施する。②地元の医療機関(美山診療所、美山林健センター)、福祉施設(長生園)を訪問し、僻地医療に関する地域住民との意見交換や懇談会を実施する。③医療スタッフと学生との意見交換会を実施する。



先日府立医大で 実習の総括報告 会が開催されまし たが、いずれのプログラムに関して も、学生たちには 概ね満足のいく評

価をしてもらえ、彼らが地域医療のあり方や自身の医療人としての将来像を問い正すよい機会になったのではないかと考えられます。また我々病院スタッフにとりましても、学生の指導を通じて自らの教育力を向上させつつ、地域医療、チーム医療のあり方を改めて考え直す機会にもなりました。本実習を成功裏に終えることができましたことにつきまして、ご協力を賜りました地域の関係各位ならびに患者さまに厚く御礼申し上げます。来年度からも引き続きよろしくお願い申し上げます。

#### 実習生からのたより

京都府立医科大学 医学部医学科 5 回生富永 愛子



今回、公立南 丹病院で5日間 過ごし貴重な経 験をさせて頂くこ とができました。 お忙しい中でも、 毎日、温かく私た

ちを迎えて下さった南丹病院の職員の方々に心から感謝しております。本当にありがとうございました。

今回の実習は、看護学科の4回生と一緒に参加したので、看護師業務を見学する機会に多く恵まれました。また、NST<sup>(註1)</sup>、ICT<sup>(註2)</sup>などの見学では、コ・メディカルの方々の活躍を目の当たりにしました。医師だけでは補いきれない貴重な情報を、コ・メディカルの方々が教えてくれるということを感じ、その意見を大切にし、取り入れることのできる医師でなければならないと思いました。

実習では、美山町の医療の現状について知る機会にも恵まれました。どんなに小さな集落でも、人が暮らしている限りは、そこには医療が必要であるということを感じました。また、僻地での深刻な人材不足については、人ごとではすまされないと感じました。病院の経営については、今まで考えたことがなかったのですが、医



療であっても、利潤を考慮しなければいけないことを 知りました。美山町の実習では、今まで私自身が見て 見ぬふりをしていたことについて、学ぶことができて良 かったと思います。在宅医療や長生園の見学を通して、 高齢化社会に備えて医療を整備する必要性も感じまし た。

南丹病院は、地域の基幹病院であり、他の施設の拠り所であると感じました。そして、その役割を果たすために、スタッフの方々が一生懸命に、医療に従事されている姿が印象的でした。南丹病院では、患者さんも、スタッフの方々も、温かい方々ばかりでした。医療従事者と患者さんという対立でなく、人と人とのつながりが感じられることも多かったです。南丹病院での5日間は、心のあたたまる、実りの多い素敵な日々でした。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(註1) NST: Nutrition Support Team 医師や管理栄養士、薬剤師、看護師、臨床検査技師など職種の枠を越え、栄養面でのサポートを実施するチーム

(註2)ICT:Infection Control Team: 感染制御チーム、院内の感染管理を担当する専門職によるチーム

#### 実習生からのたより

京都府立医科大学 医学部看護学科 4 回生

## 藤原 左由里

公立南丹病院 での5日間の実 では、大違っ 院とはまた違ったことを色々と学 ぶことができまり た。私は出身が



福知山市なので、実家に帰るときにいつも病院の前を 通過するのですが、院内に入ったことはありませんでし た。初めのうちは迷ってばかりでなかなか目的地にた どり着けませんでしたが、最終日には一人で院内を歩き回れるようになりました。JR と国道をまたぐ約 100m の廊下からの景色はとてもきれいでした。

医学科の学生と一緒に実習を受けるのも初めてで、 普段はドクターと関わる機会も少ないので、とても新鮮 でした。南丹病院の先生方はとても優しくて面白くて 個性的で、楽しく実習をすることができました。医学 科の5回生は知識が豊富で、私には分からないことだ らけでしたが、たまに医学生が知らないことを自分が 知っていたりすると、ちょっと嬉しくなってひとりでい い気分になっていました。

私は木曜日に救急研修を受けました。この日は救急 受診も少なく、比較的のんびりしていたということでし たが、看護師さんは手際良く、てきぱきと仕事をこなさ れており、とてもかっこよかったです。夜の病院は初め てだったのですが、想像していたよりも暗くなく、あま り恐怖を感じませんでした。これなら夜勤もできそうだ と思いました。

美山町の研修では、地域の抱える医療の問題について、学ぶことができました。私たち学生も、自分が住んでいるわけじゃないからと他人事だと思わずに、医療従事者として、自分たちに深く関係している問題として真剣に考えていかなければならないと感じました。

5日間という短い期間でしたが、とても様々な事を学び、考えることができました。南丹病院の医師、看護師、その他職員の皆様には、本当にお世話になりました。限られた時間の中でより多くのことが学べるようにスケジュールを組み、案内、説明をしてくださいました。勉強だけでなく、懇親会などのレクリエーションも取り入れてくださったので、とても楽しい5日間でした。ただでさえ忙しい中、私たちのために時間を割いてくださり、本当にありがとうございました。今回の実習で学んだことを忘れずに、来年から看護師として働いて行きたいと思います。

# 公立南丹病院「DMAT」

臨床工学技士長 **宅間 和秀** 

DMAT (ディーマット)とは Disaster Medical Assistance Team の略で、「災害派遣医療チーム」といいます。大地震や航空機・列車事故といった災害時



に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームである。と定義されています。自然災害に限らず大規模な集団災害において、一度に多くの傷病者が発生し医療が必要な場合、専門的な訓練を受けた医療チームを可及的速やかに被災地に出動し、被災地での救急治療や病院支援を行いつつ、被災地外の医療施設に搬送します。当院には3名の医師と看護師5名、臨床工学技士2名、事務員1名が登録されており、出動時には1チーム5名から6名で構成されます。

平成 22 年 10 月 12 日に、国立京都国際会館で「国民保護共同訓練」が実施され、公立南丹病院 DMAT として参加しました。「京都市内の国立京都国際会館において、爆破事案、化学剤散布事案が続いて発生し、多数の死傷者が発生。駐車場および地下鉄国際会館駅で爆発物らしき物が発見される」といった想定でした。公立南丹病院 DMAT チームは、事故現場付近にテントを張り、サリンによる多数の傷病者の救急治療、その後起こった爆発による多数の外傷救急処置を行い、医療施設へ搬送する任務を担当しました。

阪神淡路大震災以降、災害においても取り組みが高まってきました。地域医療を担う当院としても、緊急時に備えいつでも対応できる体制をとっておく必要があります。「災害は忘れたときにやってくる」とよく言われますが、その通りで、災害時の医療活動は、病院内で行っている医療と違い、特殊な環境下で行う医療であり、医療を円滑に実施できるように知識、判断力を駆使し治療計画を策定し実施しなければなりません。被災にあった時には、必ずパニックになります。その中で、どうやって統制するか、どうやって正確な情報を得るか、得た情報を冷静な判断で治療計画を立て、いかに実現させるかによって、早期治療が行え、また傷病者を最小限にとどめることができるかが鍵となります。この判断は訓練なしでは養われません。

また、近隣地域が被災した場合、緊急被災地活動、 後方支援、搬送受け入れ等、重要な医療機関や消防 署と連携して対応できるように、対策、訓練を行い、 災害時に機動力を発揮し対応しなくてはならないと思 います。DMATメンバーとしての訓練を受けているか らといって、災害時に対応できることは限られており、 初期動作が遅れると医療も行えない状態に陥いる可能 性があります。このためにも、平素より近畿・京都府・ 亀岡市・南丹市が主催される訓練にも参加しています。

今後、地域の基幹病院として災害時には一人でも多くの生命を守るために、地域と消防が一緒になり訓練が行われることが大切です。日常業務は多忙ですが、 災害時に対応できる体制や認識を各職員がそれぞれ の立場で持つ必要があると考えます。

# 「京都府・京都市国民保護共同訓練」に参加して

平成22年10月12日、国立京都国際会館にて開催された京都府・京都市国民保護共同訓練に南丹病院DMATの一員として、参加しました。普段の業務とは異なり、トランシーバを用いた情報収集や伝達など、慣れない点が多く、このような研修で経験を重ねる度に、学習し反省することばかりです。

今回は、平成22年11月5、6日に開催されたAPEC(財務大臣会議)でのテロを想定した、警察・消防・自衛隊参加の訓練でした。そこで私は、重症傷病者の救護所にてロジスティックス(社)として活動しました。次々と運び込まれる傷病者に対し、医師・看護師による治療がなされ、私は傷病者情報を収集し、広域搬送のための搬出に向け情報を発信する業務に携わりました。訓練とはいえ、次々に運び込まれる傷病者に翻弄され、精神的な余裕もない状況でした。もしも、実際に大規模災害が発生し、医療チームの一員として活動することになった時、傷病者数も周囲の状況もはるかに過酷な現状で、本当に訓練のような活動ができるか考えさせられるものがありました。

緊迫した中で自分の役割を理解し、周囲の安全に 配慮しながら、ひとりでも多くの人を助けられるよう、 今後も訓練や研修に参加し、地域住民の安全と、大 規模災害などが起こらないことを願っています。 (註)ロジスティックス:もともと「物流」の意。全体の流れを連絡・調整する役割から、災害現場では「調整員」ともいう。医療機関の臨床工学技士や事務職員が担当する。

# 平成22年度「京都府基幹災害医療センター研修会」に参加して

手術部看護師

岩田 直也

昨年11月23日、京都市東山区の京都第一赤十字 病院にて開催された平成22年度「京都府基幹災害医療センター研修会」に参加しました。被災病棟からの 避難および患者誘導訓練に看護師として活動し、指揮・統制・安全・情報伝達・評価の大切さを学び、緊急時 の処置、患者搬送法についての講義を受けました。各 職の災害発生時の行動手順を細かなところまで学ぶこ とができ、訓練に参加した時の疑問や反省点を振り返 り、さらに理解を深めることができました。

地震・火災避難訓練では、講義にて学んだことを活かし参加することができました。訓練会場が、解体予定の旧棟を利用していたこと、消防スタッフとの合同訓練ということもあり、とても臨場感があって、実際に決められた行動手順で動こうとしても、予期せぬ状況により自らで判断を下し行動をとらないといけない場面が多々あり、改めて災害医療の難しさを痛感しました。

今回の研修会参加を通して、あらゆる状況を想定し、 日々訓練を行うことの必要性を改めて感じるとともに、 今まで以上に災害医療に関して興味をもつことができ ました。これからも学びを深め、本院の災害医療の取 り組みに積極的に参加していきたいと感じました。

# 「大災害!!」その時手術は?

手術部看護師中村 泰大

昨年度の手術部 看護研究をきっかけ に発足した「手術 室災害対策チーム」。 平成22月9月27日、



その最初の取り組みとして、手術部看護師を中心とした実地訓練・勉強会が開催されました。手術室の看護師に、医師・臨床工学技士が加わり、手術室内の電気コンセントの特性や当院の自家発電・貯水について検証しました。

麻酔機やモニター、ME機器<sup>(註1)</sup>や、電子カルテのシステムなどは、広域に停電が起こったとしても、一瞬たりとも停電することがあってはなりません。瞬間的にも停電となることのない UPS<sup>(註2)</sup>対応のコンセントが、必要な部署には色分けされて設置されています。このようなコンセントの用途別色分けの目的などを知るきっかけとなりました。

また、停電や断水時に使用できる自家発電の燃料 備蓄、貯水量を学び、スタッフにとっては、実際のライ フラインが寸断された時のシミュレーションをするよい 機会となりました。主催者側を含めた全員が災害時に、 手術中の患者さまを守れるように、またライフラインが 供給できない状態でも、安全に緊急手術に対応できる ように真剣に勉強会に参加しました。

今後も手術部運営委員会・災害医療チームでは病院 の委員会活動を通じて災害マニュアルを更新し、対外 的にも日本集団災害医学会など広く活動を発表してい こうと考えています。

#### (註1)ME機器:Medical Electronics 医療機器

(註2) UPS: Uninterruptible Power Supply 無停電電源装置。停電時においても瞬間的にも電力の供給を途絶えさせないシステム。

# 院内保育所「たんぽぽ」

総務課長 馬渕 勝英

近年、公立病院における医師・看護師不 足は全国的に深刻な社会問題となっています。 子育てをする上でさまざまな問題が生じ、結婚、 出産を機に離職してしまうケースが多くみられる 中、女性医師の増加に対応する仕事と子育て の両立支援策が十分に講じられるよう、また、 看護師についてもその確保は重要な課題であ

り、勤務条件の改善を図り、安定的に働けることを目的として、院内の保育所の整備を進めることとなりました。

3歳までの乳幼児施設であり、現時点での入所希望 者は10名です(平成22年12月現在)。病院職員からのアンケートの結果、通称名は「たんぽぽ」となり、 今春の開所を目指し、準備を進めています。「子供の自 主性を尊重しながら、生活習慣の自立の芽生えと、心 身ともに健やかな成長を図る」ことを目標とし、皆さんか ら愛され信頼される保育所になることを願っています。





## 院内保育所概要

開設年月日 · · · · 平成23年4月1日

保育対象・・・・・・南丹病院職員(医師・看護師)が

保護者である生後4ケ月以上

3歳児未満の乳幼児

定数……20名程度

保育時間・・・・・8時から18時まで(早朝保育7時

45分から 延長保育19時15分まで)

保育料・・・・・約25,000円(給食・おやつ代・ 早延長保育代別)

職員体制……保育士(嘱託職員)4~6名程度

(乳幼児の数による)

建築面積……約104.58㎡

# 「健康食品」とどう付き合うか?

薬剤部 薬剤師・健康食品管理士 **藤岡 路子** 

軽やかに階段を下りてくる婦人が「ひざがとっても楽です。もう手放せません。毎日飲んでいます。」とコメントしている健康食品のテレビコマーシャル。それを見て「いいなあ、私も飲んでみたいな」とつい手が出そうになる。「でも効くかどうか分からない。それにこれ以上飲んだらくすり同士が喧嘩する」と思いながらもやっぱりあの婦人の軽やかさが気になって仕方がない…そんな経験はありませんか?毎日のように新聞の折り込み広告やテレビコマーシャルに様々な種類の健康食品が登場していると、1つや2つ興味をそそられる商品があるのではないでしょうか。

しかし、くすりと健康食品の良くない飲み合わせには たくさんの報告があります。さらに病気によってはかえっ て悪影響を及ぼす健康食品まであるのです。

たとえば、健康食品のクロレラは、血を固まりにくくするワーファリン®というくすり効果を低下させます。また 肝臓に良いとされるウコンは、すでに肝臓に持病がある 人が摂るとかえって肝臓を悪化させることがあるという から驚きです。

同じ摂るなら安心して摂りたいと思いますね。そこで 健康食品との上手な付き合い方をまとめてみました。

#### 病気の治療ではなく、健康増進を目的に!

健康食品とはもともと普段の食生活で不足しがちな素材を補うものです。病気の治療のためにと考えている方は病院を受診しましょう。

#### たとえビタミン剤でも大量摂取は避ける

レモン1,000個分のビタミン!! アミノ酸300倍!! など、 常識をはずれた大量摂取は考えものです。たくさん入っ ていれば良いというものではありません。

#### くすりとの飲み合わせは医療関係者に相談を

健康食品に詳しい医師、薬剤師にご相談下さい。

#### 国外の健康食品は避ける

国外の健康食品で、個人輸入またはインターネットで 販売されているものの中には、思わぬ成分が入っている ことがあります。

#### 飲み始めて変だと思ったらすぐにやめる

体調がすぐれないなど、違和感があれば、すぐにやめ て下さい。

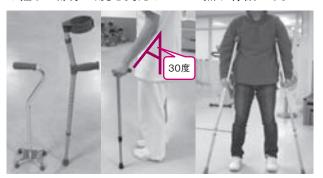
# 「歩行補助具」をご存知ですか?

言語聴覚士 強生 麻衣子

歩行補助具とは、杖のことです。杖は歩行を助け、身体を支えるために使いますが、正しく用いないと逆に歩行の邪魔になることもあります。今回は歩行補助具についてお話しします。

#### ◆歩行補助具の種類

杖の代表は松葉杖ですが、歩行補助具にはこれ以外にも歩行の状態に合わせた種類があります。4点杖(図左端)は1本杖が4本に分岐したもので安定性に優れています。ロフストランド杖(左から2つ目)は、体重を支える握りの部分と、腕を支えるカフの2点が特徴です。



#### ◆歩行補助具の正しい使い方

よく使われる一本杖と松葉杖の使用法について説明 します。

#### 【一本杖】

脚の先から約15cm外側に杖をついて握りを握ったとき、肘が軽く(30度程度)曲がる高さが適正です。

原則的には右脚の方がしっかりしていたら右手で持つというように脚が動かしやすい側に杖を持ちます。杖の降り出し方は、杖→動かしにくい方の脚→動かしやすい方の脚の順に行います。

#### 【松葉杖】

長さは、リラックスした状態で立ち、脇と松葉杖の脇あてとの間に指が2、3本入るくらい、また杖の先が身体の外側約15cm程度の位置につくように調整します。

脇には神経や血管が通っているので、脇当てに脇を のせないことが使用のポイントです。

麻痺や、力が入らない部分によって最適な補助具は 異なります。専門家の指導のもと、正しい歩行補助具を ご使用ください。

# 

# Healthy Recipe



#### 材料 (2人分)

鱈(白身魚、切り身)	白菜 中4枚
······ 60g(2切れ)	ほうれん草 中1束
下味	しいたけ 中2枚
/酒 大さじ1杯	さつまいも 40g (1/4 本)
√塩 ····· 小さじ 1/4 杯	南瓜 … 20g(くし形 1/4 切れ)
片栗粉 少々	生麩2 切れ
昆布 ····· 6cm 角	ゆずの皮 少々
	ポン酢しょうゆ 40ml

#### 作り方

- ①鱈は酒と塩をふって下味をして、うすく片栗粉をまぶします。
- ②白菜はほうれん草を芯にして巻きます。

- ⑤ 蒸しあがった④に飾りゆずを添え、ポン酢しょうゆの小皿を付けます。

# たんぱく質、ビタミンが風邪を予防!

#### 管理栄養士長 八木 成子

冬の旬の魚である鱈は、脂肪分がとても少なく、低カロリーで、さっぱりとした上品な味わいが特徴です。鱈は良質なたんぱく質が豊富に含まれ、体内で血や肉をつくる助けになります。またビタミン B₂ が含まれるので、粘膜を保護し、□内炎や□角炎の予防ができます。さらにカリウムが豊富なため、血圧が高めの人にもお勧めです。

鱈といえば「たらちり」という鍋料理がありますが、今回は鱈のちり蒸しという一品をご紹介します。旬の冬には、よりうま味と栄養成分が増す鱈、ほかの食材も一緒に摂れば栄養バランスもよくなります。クセがなく、うま味たっぷりの魚なので、煮つけ、蒸し物、ムニエル、フライ、みそ漬け、クリーム煮、中華風の炒め物など、さまざまな料理に利用してみましょう。



鱈をおいしくするコツは、下ごしらえで塩を うまく使うことです。塩をなじませ 15 ~ 20 分おくことにより、臭みを抑え、水っぽい身もプリプリの食感に変わります。

#### 編集後記

院内にも掲示されていますが、南丹病院ではさまざまな職種の業務研修が行われています。医師、看護師、薬剤師の卵や、すでに免許を持った研修医、救急救命士の初期・生涯研修もあり、多くの職員が教育的立場もとっています。

